

女性 医師への道を拓く

一人の女性がつけた一本の道、その道は日本で初めての女性医師への道。
また、婦人解放の先覚者として栄光と波乱の生涯を閉じた、
日本の公許女医第1号“荻野吟子のロマンあふれる真実の道”。
いま、その道を辿ってみたい。

荻野吟子は、江戸時代末期の嘉永4年(1851年)3月3日、現在の熊谷市俵瀬に生まれ、幼少から聡明であったと伝わります。

18歳のとき、上川上村(現熊谷市上川上)の名主稲村貫一郎と結婚します。貫一郎は埼玉県会の副議長を務めるなど、多くの分野で熊谷に大きな貢献をした人物です。しかし、不慮の病により離婚、婦人科治療を受けた辛い経験から、自ら医師になることを決意しました。

現在の妻沼にあった両宜塾で漢学等、上京して国学を修めた後、東京女子師範学校を好成績で卒業、高い教養を持った優秀な教育者となっていました。が、女医になることを表明、私立医学校好寿院に入り、優秀な成績で卒業します。

当時、女性に医術開業試験の受験は認められず、その道は閉ざされていました。多くの女性たちが試験を受けるために奔走していましたが、吟子は、直接、衛生局長の長与専齋に陳情するなど、先頭に立って活動を行いました。吟子たちの努力が実り、ついに女性の受験が認められます。

明治18年(1885)医術開業試験にて、女性として唯一合格、「日本公許女医第1号」の偉業を達成し、すぐに湯島(東京都文京区)にて荻野医院を開

業し、医療に力を尽くしました。

医師としての一方、女性社会運動の先駆者の一人としても活躍、女性の地位向上や衛生知識の普及に大きな貢献をしました。

40歳のとき、14歳年下の志方之善と結婚。キリスト教徒の理想郷を目指す夫に共鳴し、やがて、北海道のインマヌエル(現今金町)に渡ります。後には、瀬棚(現せたな町)にて医院を開業しました。

夫の病没を機に東京へ戻り、再び開業、大正2年(1913)6月23日、病気により63歳で永眠、その栄光と波乱に満ちた激しい生涯を閉じました。

“荻野吟子記念館”は熊谷市俵瀬の生誕之地史跡公園に平成18年5月1日開館、生家の長屋門を模した木造平家建ての和風建築です。

展示室では、多くの困難を乗り越え成し遂げた偉業の数々を、時代に合わせた年表や資料等により詳しく説明しています。

“日本で初めての女性医師への道、ロマンあふれる真実の道”

今日に伝えられる栄光は、荻野吟子女史のたゆまぬ努力のたまものであり、私たちの心に深い感動を与え続けています。



記念館外観

記念館の外装は生家の長屋門を模して建てられている

(現在、荻野吟子生家の長屋門は、群馬県千代田町赤岩の光恩寺に移築され、国の登録有形文化財となっています。)



移築された長屋門



荻野吟子生誕之地史跡公園

埼玉ゆかりの
三偉人

塙保己一

自らの障害を乗り越え、「群書類従」の編さんなどを行なった。

[本庄市]

渋沢栄一

企業の育成や社会事業に尽力し、近代日本経済の礎を築いた。

[深谷市]

荻野吟子

たゆまぬ努力の結果、日本で初めての公許登録女医となった。

[熊谷市]



記念館入口



医学書



荻野家に
伝えられた
什器



展示室



展示室

人その友のため
己の命を損つるは
是より大なる愛はなし

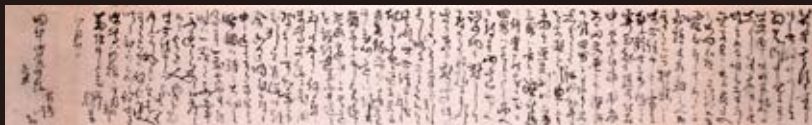


左記の句は、荻野吟子
が愛唱した聖句です。

(三八八係十五章第十三節より)

荻野吟子の歩み

- 嘉永4年(1851) 3月3日武蔵国幡羅郡俵瀬村(現熊谷市俵瀬)に父綾三郎、母嘉与の五女ぎんとして生まれる。
- 慶応4年(1868) 上川上村(現熊谷市)名主 稲村貫一郎と結婚。(18歳)
- 明治3年(1870) 協議離婚し、大学東校病院に2年間入院。女医を志す。
(退院後) 両宜塾(現熊谷市妻沼)に入塾、松本万年に師事。
- 明治6年(1873) 父綾三郎死去の後、国学者井上頼圀の神習舎に入門。
- 明治7年(1874) 内藤満寿子の招きにより甲府に赴き助教となる。
- 明治8年(1875) 東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)に入学。
12年7月同校を卒業。(29歳)
- 明治12年(1879) 軍医監石黒忠憲の尽力により私立医学校好寿院に入学、15年同校卒業。
- 明治17年(1884) 内務省長と専齋衛生局長に医術開業試験の女子受験許可を陳情。
医術開業試験を許可され受験、前期試験に女性ではただ一人合格。
- 明治18年(1885) 3月、後期試験に合格し、日本初の公許女医第1号となる。(35歳)
本郷区湯島(現文京区)三組町に医院開業。下谷黒門町に移転。
- 明治19年(1886) 本郷教会にて洗礼、東京婦人矯風会に参加し、後に風俗部長となる。
- 明治22年(1889) 明治女学校の生理・衛生講師、校医となる。
- 明治23年(1890) 志方之善と結婚。(40歳)
- 明治24年(1891) 志方之善、キリスト教徒による理想郷建設をめざし北海道に渡る。
濃美地震の孤児のため、病院を提供。
- 明治27年(1894) 吟子も渡道し、インマヌエル(現今金町)にて夫の伝道に協力。
- 明治30年(1897) 北海道瀬棚(現せたな町)に医院を開業。
- 明治38年(1905) 志方之善、瀬棚で病死。
- 明治41年(1908) 北海道を引揚げ、東京本所区新小梅町に医院を開業。
- 大正2年(1913) 6月23日病氣にて死去、享年63歳。



田中かく宛の手紙(複製)



入口スロープ



休憩室

ご利用案内

- 開館時間 9時～17時(変更の場合もあります)
- 休館日 月曜日(祝日開館、翌平日に休館)
年末・年始、展示品整理期間中



交通案内

- バスご利用の場合 JR熊谷駅から葛和田行きに乗車、「土手上」で下車(所要時間約30分)下車から徒歩約20分。
- お車ご利用の場合 関越道東松山IC下車、県道・国道407号経由で30km。花園ICから国道140号・国道407号経由で約25km。

荻野吟子生誕之地史跡公園

熊谷市立 荻野吟子記念館

〒360-0223 埼玉県熊谷市俵瀬581-1
TEL・FAX 048-589-0004

このリーフレットは15,000部作成し、印刷にかかる熊谷市の負担は、一部当たり9円です。